

WEEKLY REPORT

District 2630 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30 会場 シティホテル美濃加茂

Minokamo Rotary Club



2022~2023 年度 RI 会長 : ジェニファー・ジョーンズ(カナダ)

RI テーマ : イマジン ローターリー

会長 大野 博文
副会長 山田 彰
幹事 酒向 信幸

事務局 〒505-0041
美濃加茂市太田町 2565-1
シティホテル美濃加茂 2F
Tel:0574-25-2824 Fax:0574-28-2575

HP <https://minokamo-rc.com/> Eメール inforc@minokamo-rc.com

本日のプログラム

第2662回6月9日(金) 12:30~
ゲスト卓話

次例会のプログラム

第2663回6月16日(金) 12:30~
CA・下期反省会

前例会(第2654回)の記録 4月7日(金)

◇点鐘・・・・・・・・・・・・・会長:大野博文

◇国歌斉唱・ロータリーソング唱和

“君が代” “奉仕の理想” “四つのテスト”

■会長の時間 会長:大野 博文

それでは6月2日、残り1ヶ月、今期最後の月になりました。早いもので、やり始めた当時は1年あるのかなと思っておりましたがもう早くも後1ヶ月、残すところ例会4回で今期も終わりました。そしてこの6月に入って、ロータリーの毎月あります月間報告で今月は親睦活動月間となっております。昔から親睦活動月間は6月に行うということで親睦旅行等を6月に行うクラブが沢山あるそうです。美濃加茂 RC も昔は6月に親睦旅行があったりしました。この親睦活動月間というのは、日本の中では親睦活動というと旅行であったりゴルフであったり半分レジャー・スポーツといったものと思われて活動しているところが多いのですが、ロータリーとしてはロータリーフェロシップと言って皆で社会奉仕活動等を一緒にすることによって好意や友情を深めて行く、そんな月間になっているそうです。そういった面では美濃加茂 RC は今期藤吉紀美君に親睦委員長という形で色々やって頂き、長いことなかった1泊の親睦旅行も企画して頂きました。それ以外にも今週末、幹事杯ということでゴルフコンペも行われます。以前は井尾さん

を筆頭にボウリング同好会として月1回ボウリングも行われたりしていました。気が合う者同士、お互いの趣味で集まってそういった活動も大事なことだと思っております。こういった活動をすることで、新メンバーを迎えたり親睦活動を経て新メンバーがクラブを辞めて行く事が少しでも減って行くことを目的としているそうです。この親睦活動月間で新しいメンバーを迎えるという話になりましたが、今日の理事会の中で6月中に2人入会して頂ける形で承認を通させて頂きました。皆さんの元へもうすぐご案内が届くかと思いますが、42歳と37歳という若手の地元経営者の子が2人、新メンバーに加わってくれることとなります。これで美濃加茂 RC の総メンバー数が今期42名という形で終われると思います。こういったロータリークラブの中で親睦活動を始めるきっかけとなりましたのは、ロータリークラブを立ち上げる当時、会社で仕事をしても週末になるとすごく暇で寂しい、そんな気持ちから異業種の色んな人達と意見交換を交わすことによって元気を取り戻そうということでこういったクラブを作ろうという話が出てきたそうです。そういった週末の寂しさを紛らわすという、今日卓話で話をさせて頂きます酒向伸治君。最近週末仕事を終えてからの夜寂しい生活を送っているそうですが、そんな中で今日自ら卓話をしたいと手を上げて頂きました。酒向伸治君の卓話を聞くのが本当に楽しみで、今期私の会長の時にやって頂けて本当にありがたいなと思っております。それでは皆さん、卓

話の時間を楽しみにして頂きたいと思います。会長の時間でした。

委員会コーナー

◆出席委員会 担当：酒向 伸治

例会日	総員数	出席	出席率
本日	40名	23名	57.50%
先々週	40名	23名	57.50%

◆親睦活動委員会 担当：藤吉 紀美

◇6月度会員誕生日祝

6/4 藤井 保明君
6/10 鈴木 亨治君
6/16 林 松美君
6/16 山田 彰君
6/21 石田 公司君
6/27 藤吉 紀美君



◆ニコニコ BOX 委員会 担当：小柳 晶寛

大野博文：残す処 1 ヶ月で今期も終わりです。今期を締めくくりに酒向伸治君が卓話に名乗り出て頂きありがとうございます。大変楽しみにしています。

酒向信幸：酒向伸治君本日は宜しくお願い致します。大野会長のイジリにも負けず 30 分みっちりお願いします。

佐々木晃：足(腰)に痛みが出る原因！！膝への負担は体重と比例する！！体重 45kg の人・平地歩行 45kg×5 倍=225kg、階段を下りる 45kg×8 倍=360kg/体重 60kg の人・平地歩行 60kg×5 倍=300kg、階段を下りる 60kg×8 倍=480kg/上記の様に平地歩行で 5 倍、階段の下りで 8 倍の体重が膝にかかります。先週話しました様に標準体重に少しずつ近づけましょう。そして、PPK で家族を安心させましょう。

井尾達之：ゴルフコンペが天気ですみますように！！

西田逸夫：酒向君ガンバって。

藤吉紀美：本日は酒向君の卓話を拝聴しに来ました！

小原岳史：酒向伸治君、卓話宜しく願います。

藤川敬太：伸治さん、史上最高の卓話、楽しみにしています。

島田紳助：今日は会員卓話ですね！！

水谷美紀：酒向さん、卓話楽しみです。

佐合淑美：酒向君の卓話楽しみです。

谷口真一：酒向伸治さん、卓話楽しみにしています。

酒向伸治：初卓話に挑戦します。楽しみと不安が入り混じったなんとも言えない複雑な心境ですが、頑張りますので宜しく願います。

星屋和輝：伸治さん本日はととっても楽しみにしております！！

鈴木亨治：本日も宜しくお願い致します。酒向伸治さん、期待しています。

小柳晶寛：七宗町キャンプ場第 1 目標の 50 万達成しました。ご支援頂いた皆様ありがとうございます。山の上にサウナを作って皆様と裸のお付き合いをしたいと思っていますのでスポンサー支援を是非何卒宜しくお願い致します。

以下同文：堀部道朗、堀野義夫、濱田龍一、鈴木玄二、井上充、渡邊貴紀、牧田秀憲

◆幹事報告 幹事：酒向 信幸

◇6 月度定例理事会

第 1 号議案

新会員について

第 2 号議案

21~22 年度会計報告について

第 3 号議案

その他

当座預金、貸金庫の取り扱いについて

カレー例会について

柿の摘花について

小川恒雄元県議のご苦労さん会について

・5/20 名張 RC60 周年記念式典お礼状を拝受

◆会員卓話

担当：酒向伸治

改めましてこんにちは。

2022年9月30日付けで美濃加茂ロータリークラブに入会させて頂きました酒向伸治でございます。入会して早や8ヶ月が経とうとしております。ロータリークラブに入って初めて「卓話」という機会に接しました。日頃接することができない業種の方々の話を伺うことができるので、卓話の会は特に楽しみにしていましたが、自らの出番となると、果たして人を魅了できるような話ができるのか？オチはあるのか？と、やはり戸惑うばかりです。私は自分自身のことより人の話に興味があって聞く側に回ることが多いので、私から自身の過去のことについて話すことはまずありませんが、卓話の初回は自己紹介が慣例ということですので、この機会に私の生い立ちや歩んできた道、初めて話す過去の経験談やエピソードを交えながら、お話できればと思います。

<小・中学校時代>

1974年昭和49年5月20日に男3兄弟の次男として生まれ、現在49歳です。昭和49年は長嶋茂雄選手が現役を引退した年であり、5月20日は王貞治監督と同じ誕生日です。

小学校4年生から始まるスポ少野球が待ち遠しく、遊ぶというと野球ばかりやっている少年でした。もちろん中学でも野球部を志望しました。しかし、少年期の私は体が細くそこまで大きくない、守備は上手いけど長距離バッターではない、短距離走よりも長距離走の方が得意ということから、いわゆる「守備の人」と言われ、2番サードが定番のポジションでした。野球に必要な走攻守の3拍子がアンバランスであり、これが揃っていないと高校では芽が出ないことを既に悟り、甲子園まで夢見ていた少年時代でしたが、長嶋監督と王監督になんらあやかることなく、中学の部活の段階で儚くも野球の夢破れてしまいました。

高校に行ったら、ハーフ40分間ピッチを走り続けられて、持久力が求められるサッカーの方が自分には向いていると自己分析して、高校からはサッカーを始めるのでした。

<高校時代>

高校の選定は、その先の大学進学も視野に入れて可見高校に進学しました。高校でサッカー部に入部すると、既に可見市の中学時代から名



を馳せたサッカー経験者ばかりで、高校からサッカーを始める自分にとっては厳しい環境でした。それでもピッチに立ってプレーしたい、レギュラーになりたいという思いで必死に練習に励み、大学進学を目的に可見高に進んだはずなのに、勉強はそっちの気で毎朝の英文小テストは机に書いてカンニング、授業中は居眠り、宿題は休み時間に丸写し、家には寝に帰るだけのサッカー漬けの毎日を送り続けていました。その分練習に打ち込んだ成果もあって、2年生になる頃にはサイドバックながらレギュラーとなり、県内の大会ではベスト4までは進むが全国高校サッカー選手権常連校の岐阜工業高校と当り、毎回負けるという結果でした。練習で身体を酷使しすぎて疲労骨折、椎間板ヘルニアと故障持ちで、3年の夏に引退するまでなんとかプレーするもピッチを走り回るハードなスポーツはもう続けられない身体になってしまっていました。翌年の平成5年にサッカーJリーグの開幕を控えて世の中はサッカーブームが巻き起こっていましたが、私の中ではサッカーをやり切った感一杯で、もうサッカーに未練はなく、単純な考えですが、大学へ行ったら身体に負担なく歩きながらプレーできるゴルフをやろうと決めました。

<大学時代>

大学選定にあたり、ゴルフをやる環境はどこがいいか探したところ、当時マルちゃんの愛称で呼ばれ、ジャンボ尾崎のものまねでTVでも活躍していた丸山茂樹プロが日大ゴルフ部出身だったこともあり、よし！じゃあ日大に行ってゴルフ部に入ろう！という単純な動機で日本大学に進学しました。

今からちょうど30年前の日大ゴルフ部について回想しながら深堀りして話したいと思います。ゴルフにご興味のない方も見えるかもしれませんがお付き合いをお願いします。

日本大学は在籍生徒数8万人超の言わずと知れたマンモス校で、ひとつの学部で他の大学の1校に匹敵するぐらいの規模であり学部毎に所在地も変わってきます。他の学部の人は、同じ日大でも他校の人という感じでした。私が進学したのは「理工学部」で、1,2年時は千葉県舟橋市にありました。これはゴ

ゴルフ部に入部してからわかったことですが、日大ゴルフ部に入れば丸山茂樹プロと同じゴルフ部に入ると勝手に思い込んでいたところ、丸山茂樹プロが在籍していたのは経済学部のゴルフ部であり、学部も所在地も全く別の程遠い存在の人だったことがわかりました。

理工学部ゴルフ部の平日練習は、打ちっ放し練習場の2階席の端を10打席ぐらい借り切って、夕方5時から閉店まで3年生が永遠と打っているのを1年生は後ろに1列に立ってナイショ！と声を出し続けるという具合です。

金曜の練習が終わると1、2年生はそのまま3年生の車に乗り込み、千葉県から高速道路に乗って栃木県のゴルフ場まで深夜入りで移動します。目的は、土日で住み込みでキャディーバイトをしながらお客さんのいない早朝と夕方の時間帯に実践ラウンドをすることです。今でこそセルフプレーは当たり前ですが、当時セルフプレーでラウンドされるお客さんはほとんどなく必ずキャディーが付きます。カートは今のような乗用カートではなく、バッグを4つ乗せる手押しタイプで、キャディーが押しながら歩き、プレーヤーも歩きます。

時は平成5年、バブル期が平成3年までと言われているので既に景気後退ではありましたが、バブルの余韻そのままにたいいのお客さんが官公庁の偉い方や大企業の部長さん、役員さんの遠征の接待ゴルフでした。当時はスコアをカートナビに入力することはありませんでしたし、他の3人でヨイショしながら接待するのに一生懸命でしたので、キャディーが4人分のスコアをラウンドしながら数えて記録していきます。接待されている偉い方があまりお上手ではないパターンが多くてOB、ダフリ、シャンクのミスが連発するので、一応、ホールを上がる度に接待する側の方に「さっきのミスどうしておきましようか？」と内緒で確認しますが、「無しに決まっとるやろ！」と言われるのがオチでした。ミスは全て無かったことになってしまうことに、ゴルフは紳士なスポーツと考えていた私にとっては異様な光景に映りましたし、今でこそ忸度なんていう都合のよい言葉がありますが、当時の私にとっては、「なんでも有りがまかり通る」という、社会の歪んだ構造を目の当たりにして、「これが接待というもので、この先社会にでた後に巻き起こる世界感なんだ..」と、18歳の私は複雑ながら現実を受け入れたのを覚えています。

各部のゴルフ部が本部のゴルフ部に集まる夏合宿という機会があり、3年生のかばん持ち兼キャディーで帯同しました。そこには私の2学年上の当時3年生で、後に日大三羽がらすと言われる片山晋呉先輩、宮本勝昌先輩、横尾要先輩がいました。卒業して直ぐに3人同時でプロテストに合格して今でもプロゴルファーとして有名なお三方です。

宮本先輩は1年時に日本アマチュアゴルフ選手権で4年生の丸山茂樹先輩を破って優勝した実績から、一番有名でした。宮本先輩は日本ツアー12勝の成績です。

横尾先輩は3年時に日本学生ゴルフ選手権競技で優勝し、日本ツアー5勝の成績です。女優のかとうれいこさんにご結婚をされました。

片山先輩は今でこそツアー通算31勝、永久シード保持者で圧倒的な成績ですが、4年時に日本学生ゴルフ選手権競技で優勝するまで3人の中では一番の遅咲きでした。ちなみに丸山茂樹プロは国内ツアー10勝、PGAツアー3勝の成績を残されています。

この3人の後ろで練習を見学していた時のドライバーの飛距離が凄くて衝撃でした。当時のドライバーは今主流のカーボンやチタンではなくメタルウッドの時代でしたが、それでも打ったボールがピンポン玉のように軽く飛んでいきます。いつか自分もこんな飛ばせるプレーヤーになってみたいと憧れを抱いたものです。余談ですが、私がドライバーを打つ時に曲がろうがOB打とうが飛距離にこだわっているのは、この時の先輩方の飛ばしている映像が未だに脳裏に焼き付いているからで、ずっと追いつけているからです。

学生のラウンドはカートを使わせてもらえないので、クラブのバッグはすべて担いで回ります。どの体育会系でも上下関係はあると思いますが、たいい3年生は神様、1年生は奴隷の扱いだと思います。日大ゴルフ部の慣例は、ラウンド時の1年生は組の4人全員分のバッグをひとりで4つ担いでダッシュが基本です。上級生のボール位置までダッシュで走ってバッグを届け、打ち終わったらまた4つ担いで次の先輩のボール場所までダッシュで走るという繰り返しです。先にボール位置まで行ってヤード杭から残りの距離を判断して伝えるまであります。もちろん自分もプレーして回るのでキャディー&プレーのスタイルです。

軽量シャフトやユーティリティーなんて無い時代ですからクラブセッティングは3番アイアンからスチールシャフトでずっしり重いです。グリーン周り

でのアプローチ練習用にボールもバッグにそれぞれ20~30個ぐらいずつ入っているのだからかなりの重量です。このバッグを4つ担いで18Hダッシュで回るので、ほんとに地獄でした。自分のクラブを奇数アイアンだけにして軽量化しても焼き石に水状態です。

先輩方は手ぶらでゆっくり歩くのに1年生は歩くことは許されませんし、「水は飲むな！」が当り前の時代でしたから、水分補給さえできませんでした。自分の打ったボールであっちこっち行って体力使いたくなければ気合で真っ直ぐ打て！という精神的な教えとスイングは見て盗め、が先輩方の口癖でした。当時はYouTube先生もいないし、スイングのいろはもわかりません。練習場でもまともに打たせてもらえないのにこんな状態で普通にゴルフなんかできません。私の18歳での初ラウンドのスコアは忘れもしません。「184」でした。大学のゴルフ部はこれが当り前と思って疑問にも思わず必死になってやっていたのですが、振り返ってみると、今では考えられないようなしごきだったと回想します。

日大といえば、昨今、社会問題にもなったアメフト悪質タックル事件があります。監督やコーチによる選手への圧力や度を行き過ぎた体育会系のタテ社会が明るみになりましたが、その上下関係はゴルフ部のそれと同じで、体質的にまだ続いているのだなと思ってしまいました。

夏休みはゴルフ場に長期の住み込みなので、ラウンドの度にバッグ4つ担いで走り回る日々が続く、これが祟って1年の夏休みが終わる頃には既に身体が悲鳴を上げていました。ゆっくり歩いてプレーできるスポーツとしてゴルフを選んだはずなのに、ピッチを走り回るサッカーより何十倍も過酷でした。高校時代に痛めた椎間板ヘルニアが悪化して痛みなく歩くこともできず、私が頑張って3つ担いで2年生が1つ担いでくれて助けてくれたこともありましたが、もうバッグ4つを担げない身体になってしまいました。プレーももちろんできません。病院に罹ったところ、これ以上酷使するとスポーツできない身体になるからもう辞めたほうがいい！と言われたことをきっかけに、ここでゴルフ部を辞めざるを得なくなりました。入部の時に数十人いた同級生も同様の理由で夏前から順番に退部していたので、私が辞めた時には既に数名の同級生しか残っていなかったという現状でした。

この時ゴルフを辞めて以来、ゴルフとは離れ、腰の休養もあって20数年間、練習にも行かず、消防や青

年部のコンペで年に1、2回程度ラウンドするぐらいの頻度でしたが、今からちょうど3年くらい前に藤川敬太くんと出会い、ゴルフでだいぶ煽ってきまずので、それでスイッチが入り、またゴルフ熱が上がってきて、それから一生懸命取り組むようになった今日この頃です。

ここまでが日大ゴルフ部時代の話ですが、スイングすら教わることもなく、ただ重い荷物を背負って走り回っていただけですので、今の私のスコアと日大ゴルフ部は一切関係ございませんので、これは絶対にイジらないでください。

もう普通にスポーツができない身体になっていた私でしたが、その後バイトを通じて音楽に関わるようになっていきます。それはコンサートバイトです。早朝から深夜まで拘束時間は長いが弁当付きで日当は現金払いという貧乏学生にとってはありがたいバイトでした。東京ドームや武道館などの大規模会場はもちろん、公会堂や文化会館クラスの小さな会場でのコンサートツアーも携わりました。小さな会場でのコンサートの場合、機材搬入やお客係員、警備、バックヤードやケータリングなどは、ほぼバイトの仕事でした。3年近くやっている間にバイトリーダーにもなりバックヤードへの出入りが自由な立場にもなっていました。このバイトを通じて、アーティストや芸能人の方々のバックヤードの様子を拝見することになるのですが、全て話していますと時間がないので、一番印象深い方に絞って話をしますと、平成8年当時、「シングルベッド」「ズルい女」などのヒット曲で全国ツアーを回っていたシャ乱Qの関東の会場に当たることがあって、バイトリーダーの私はメンバーの会場入りからバックヤードなどを担当させて頂きました。当時のシャ乱Qは、つんくさん率いるデビュー間もない大阪出身の勢いのあるグループで、金髪でよく喋るやんちゃなお兄ちゃん達という感じでした。つんくさんの会場入りは白のジャガーに乗って一人で来られますが、他のメンバー4人の会場入りはハイエース1台で乗り合わせでした。おそらく作詞・作曲による収入格差が既にあることだと想像しました。アーティストさんは、バイト一人一人を名前では呼ばず、「バイト君」って呼ぶのが普通でしたが、つんくさんだけは、酒に向かうという名字が珍しいと言って、「酒向」「酒向」と名前を呼んでくれたのが嬉しかったです。そのつんくさんが、後に「モーニング娘。」をプロデュースするような大プロデューサーになられるとは、この時、思ってもみなかったです。

こうしてバイトを通じてプロが演奏する迫力のある重低音や美しい音色の音楽を聞いていると、自然と音楽が生活の一部になっていき、何を勘違いしたのか自分でもバンドをやってみたいと思うようになってしまうのです。たまたまドラムを習い始めた友人、ベースをやっていた友人がいたので、大学3年生の夏にバンドを結成することになりました。ただ、僕たちの周りに歌えるボーカルがいなかったのです。そこで書店でも売っている全国誌のGIGSという音楽雑誌の募集欄でボーカルを募集したところ、唯一応募してくれたのが美濃市在住の当時19歳の女性でした。後の嫁となる女性です。結婚したのは社会人になってバンド活動をやめてしまった後で、順番は間違えていませんが、全国誌でボーカル募集をしたハズが、結果として、全国誌で嫁さんを募集した形になってしまいました。

<社会人時代>

平成9年に無事に大学を4年で卒業して就職となるわけですが、稼業というか父親が羽島市で酒向鉄工を営んでおりましたが、私は土木工学科だったのもあってこれを継がず、土木の道へ進むことにしました。バブル崩壊後の就職氷河期の真ただ中ではありましたが、運よく平成9年新卒の就職状況はいったん持ち直した年だったので幸いでした。土木工学科の就職先は、ほぼ3択で公務員になるか、ゼネコンに行くか、設計コンサルタントに行くかのどれかになります。公務員試験の勉強は全くしておらず公務員の選択肢は私の中でなくてゼネコンと設計コンサルタントの2択になりますが、全国津々浦々と現場転勤族となって働くゼネコンよりも、図面を描いたり、考えて設計することが好きだったこともあって、設計コンサルタントの道を選びました。

設計コンサルタントでの配属が名古屋支店だったので東京から東海に戻って来られたのと、下水道部所属だったこともあり、それから下水道全般に関わるようになっていきます。岐阜県では、平成5年に梶原拓県政の中で「全県域下水道化構想」を打ち立てられていて、平成9年は下水道普及の為の設計が急ピッチで進められている中での就職でした。

設計の仕事はデスクワークで一日の仕事終わりの区切りがつけづらく、定時で誰も帰らないのでそのまま残業となり、各自終電の時間がきたら仕事を切り上げて帰宅するというパターンでした。私もそれに漏れず23:30名古屋発新可児行きの終電まで残業し、帰宅は毎日午前様というハードな20代を過ご

していました。このまま過労死するのではないかと思っていました。

来る日も来る日も東海3県の市町村の污水管渠や下水処理場の設計に明け暮れていた頃、美濃加茂市にも下水処理場が出来て、平成16年4月供用開始に向けて処理場の運転管理ができる人を探しているということで、平成15年の秋に美濃加茂衛生からお声がかかりました。幸いにも下水処理場の分野には明るかったこと、地元美濃加茂市で働けること、第一子がちょうど生まれたばかりで子育ての時間もこれからは必要ということで、30歳の時に美濃加茂衛生に転職することにしました。それ以降、加茂野にあります「あじさいエコパーク蜂屋川クリーンセンター」にて下水処理の管理を行うとともに、皆様の快適な生活を守るためのライフラインの一翼を担う気概で日々業務に取り組んで現在に至っております。

最後になりますが、以前は商工会議所青年部で、自己研鑽と挑戦、情熱と行動で地域経済発展の支えとなるべく活動して参りましたが、これからはロータリークラブの一員として、違った形で地域や社会に貢献できるよう、諸先輩方の姿に学びながら、ロータリアンとして頑張りたいと思います。まだまだ知らないこと、わからないことばかりですので、ご指導を宜しくお願いいたします。

以上となります。

ご清聴ありがとうございました。